

## 令和4年度第2回広島市都市デザインアドバイザー会議 会議要旨

### 1 開催日時

令和4年(2022年)10月26日(水)15時00分～17時10分

### 2 開催場所

JMS アステールプラザ 4階大会議室 A・B

### 3 出席者

出席委員(6名)

今川 朱美、角倉 英明、田中 貴宏、柏尾 浩一郎、吉田 幸弘、塚本 梓織

欠席委員(1名)

高田 由美

### 4 議事

(1) 座長・副座長の選任

(2) 広島市医師会運営・安芸市民病院病棟等建替え工事について(報告)

(3) 広島城三の丸歴史館新築工事について(1回目会議)

その他報告(基町相生通地区第一種市街地再開発事業について)

### 5 公開・非公開の別

公開

### 6 傍聴者

一般傍聴者 6名

報道関係傍聴者 3社

### 7 会議資料

会議次第、委員名簿、出席者名簿、配席図、議事資料

### 8 会議要旨

(1) 議事(1) 座長・副座長の選任

出席者の推薦により、座長に田中委員、副座長に角倉委員が選任された。

(2) 議事(2) 広島市医師会運営・安芸市民病院病棟等建替え工事について

これまでの検討での委員からの意見等を踏まえた最終的な設計内容の報告を行った。  
委員から壁面サインについて、引き続き視認性が高まるよう工夫してほしいとの意見があり、見え方について今後も検証を行うこととなった。

ア 壁面サインの視認性について

- ・南壁面のサインについて、影により二重に見える恐れがないか等、視認性が高まるよう今後も引き続き検証を行う。

イ 植栽の管理について

- ・車椅子の方が通れない部分等が生じないように、植栽の適切な管理を行う。

(3) 議事(3) 広島城三の丸歴史館新築工事について

議事内容の説明を行い、デザイン上の配慮事項に関する御提案をいただいた。  
今後の検討事項は次のとおり。

ア 広島城天守への軸の位置について

- ・特に1階において、軸を共用部の中心に設定する等、軸が意識できる平面計画となるよう検討する。

- イ 歴史館からの景観（眺望）について
    - ・ 2階展望ラウンジからの天守閣の見え方を確認する。
    - ・ 1階広島城天守への軸線上からの天守閣の見え方を確認する。
  - ウ 外部からの見え方を配慮したガラスの使い方について
    - ・ 歴史館の内部及び外部からの視認の必要性を再検討し、ガラスの仕上げを検討する。
  - エ 周辺事業（P-PFI など）と調和した屋外空間について
    - ・ 舗装や溜まり空間などの屋外空間について、周辺事業と連携し調和のとれたデザインとなるよう検討する。
- (4) その他報告（基町相生通地区第一種市街地再開発事業について）
- 前回（令和4年5月12日開催）の会議で各委員から頂いたご意見を踏まえた検討の方針について中間報告を行い、デザイン上の配慮事項に関する御提案をいただいた。今後の検討事項は次のとおり。
- ア オープンスペース（1階・6階）の有効活用について
    - ・ 地元エリアマネジメント団体などと連携し、引き続き活用方法を検討する。
  - イ 広島らしさや独自性の表現について
    - ・ 1階と6階の性格分けなど、使い方を整理し、それぞれにあったデザインとなるよう検討する。
    - ・ 広島らしさも大切であるが、この場所、この建物にしかない独自性が表現できるよう検討する。

#### 【会議概要】

##### ○田奥都市デザイン担当課長補佐

（開会挨拶、配布資料確認、出席者照会及び議事説明、座長及び副座長の選任）

##### ○田中座長

それでは、本日の議事(2)「広島市医師会運営・安芸市民病院病棟等建替え工事について（報告）」の説明をお願いする。

##### ○橋本施設整備担当課長・

設計業務委託者（㈱石本建築事務所設計部門 森下建築グループ部長）

（議事(2)「広島市医師会運営・安芸市民病院病棟等建替え工事について」の説明）

##### ○田中座長

ただいまの説明に対して、設計方針やデザイン上の配慮事項に関する御提案や御質問等あればお願いしたい。

##### ○田中座長

では、私から。植栽の話ですが、緑地②、緑地④、緑地⑦のあたりは、大体同じような植栽になるということか。

##### ○設計業務委託者（㈱石本建築事務所設計部門 森下建築グループ部長）

緑地については、木の種類が多いと、後々のメンテナンスが大変になるので、あまり種類が多くなりすぎないようにしている。

全体として、規則正しい整然とした感じではなく、自然な雰囲気での植栽をしたいというコンセプトは共通なので、似通った樹種等となっている。

##### ○田中座長

緑地③が少し際だったような形で、他は似たような植栽が広がるということか。

○設計業務委託者（㈱石本建築事務所設計部門 森下建築グループ部長）

そうである。

○柏尾委員

外壁サイン色が日塗工のLN-35となっているが、この色彩は、デュアルカラーフィルムの一見色ということか。このシートのカラーバリエーションは、黒か白のどちらかだと思う。今回のシート自体は黒で穴があいているものであり、昼間は一見するとグレーに見えるということによいか。

○設計業務委託者（㈱石本建築事務所設計部門 森下建築グループ部長）

そうである。

○柏尾委員

サイン立ち上がりのベージュ色は、どの程度の色彩とするのか。

○設計業務委託者（㈱石本建築事務所設計部門 森下建築グループ部長）

壁面と同色をイメージしている。実際には現地でモックアップ等をつくり、確認したい。

○柏尾委員

壁面の色彩が10YR8/3であるので、立ち上がりは、10YR9/2くらいの明度を若干アップさせたものとするといいたろう。

○吉田委員

柏尾委員の意見に引き続きであるが、私の理解では、デュアルカラーフィルムは、カラーバリエーションは白と黒と二色しかない。今回のサイン色である日塗工のLN-35は、明らかにグレーなので、一见色ではなく、黒のフィルムを塗装するという認識だと思うが、どうか。見え方に差はあまり出てこないという気はするが。

サインの側面がベージュ色と言っていたが、特に南側の日が当たるところについては、逆に袋文字のような見え方にならないか。影が出て文字が二重にダブって見えるような現象とにならないか心配である。

サイン表面がグレーで、間がアイボリー、外壁の壁面に落とす影が、またグレーや黒なので。片側だけ袋文字のような、ダブって文字が見えてしまうという懸念がある。

○設計業務委託者（㈱石本建築事務所設計部門 森下建築グループ部長）

サインの色は、色を塗ることもあるが、耐久性等も含め、再度確認する。

袋文字について、側面を黒色とする、又は今回のように外壁に近い色とすることは、どちらも一般的である。最終的には、現地でモックアップ等をつくり、どちらが見やすいのか検証した上で決定したい。

○柏尾委員

デュアルカラーフィルムに塗装をするのか否か、確認したい。

○設計業務委託者（㈱石本建築事務所設計部門 森下建築グループ部長）

現時点では、塗装は考えていない。

○柏尾委員

塗装しないということで、承知した。

○今川委員

植栽について、今後の管理をしっかりしてほしい。大きくなる植栽については、ある程度大きさを止めておかないと、車椅子等が通りにくい場所が出てくることが懸念される。

○田中座長

それでは、幾つか意見をいただけたと思うので、まとめさせていただく。

一番大きなところとしては、サイン周りかと思う。視認性がしっかりと確保されるように、サイン自体や立ち上がりの色をどうするのかについて、現地でも確認しながら、最終的なデザインを決めていただきたい。

最後、今川委員からお話があった樹種について、今後の管理を含め、想定されているもの

が実現できるように御配慮いただきたい。

議事(2)については以上である。

○田中座長

それでは、本日の議事(3)「広島城三の丸歴史館新築工事について（1回目）」の説明をお願いします。

○橋本施設整備担当課長・設計業務委託者（株）山下設計関西支社 設計監理部 小原氏）

（議事(3)「広島城三の丸歴史館新築工事について（1回目）」の説明）

○田中座長

ただいまの説明に対して、設計方針やデザイン上の配慮事項に関する御提案や御質問等、があればお願いしたい。

○角倉委員

広島城天守への軸をつくること自体は、このエリアにとって非常に重要だと思う。

2階の展望ラウンジでは、何を展望するのか。

○設計業務委託者（株）山下設計関西支社設計監理部 小原氏）

展望ラウンジからは、広島城天守をメインに見ていただく予定である。

○角倉委員

そうすると恐らく、この平面計画でいうと、建物の西側の石垣がL字に凹んでいる辺が一番きれいに見えるのであって、恐らく展望ラウンジに行くと、石垣が目の前に来て、その上の木の裏に天守閣が出てくる程度で、そこまで展望感がないのではないかと。

もし、展望をするのであれば、そもそも平面計画のレイアウト自体を少し変更したほうがいいのではないかと。高さも数メートル上がるぐらいで、見えたとしても天守の上部の数層分しか見えないのではないかと。全貌はよく分らないだろう。

○橋本施設整備担当課長

展望ラウンジの高さは、4～5mほどである。展望ラウンジから真正面を見ると、樹木により隠れてはいるが、護国神社の屋根が見える。その少し斜め上に天守閣が見えるだろう。

反対側の城南通りから見た限りでは、道路から見ると天守は隠れている。歴史館裏側の2階から見ると、天守は確認できると思うが、また見え方は確認したい。

○角倉委員

せっかく天守閣を見せるのであれば、やはり全貌を見せたほうがいい。

○吉田委員

広島城天守への軸を設定したことは、非常にいいことだと思う。展望スペースもそうであるが、1階の共用エリアからの天守の見え方のシミュレーションはできているか。

○橋本施設整備担当課長

1階から天守を見上げると、護国神社の屋根がかかり、天守の屋根が見えるか見えないか程度であると思う。2階からだとも、天守がもう少し見えてくると思う。

○吉田委員

平面図上で、広島城天守への軸の中心線はどこに位置するのか。それを図示していただくと非常にイメージが付きやすい。

今の軸は幅が広い。建物の中のエレベーターや階段が、軸と重なってくるのか、それをうまく逃がしているのか、どういう位置関係なのか知りたい。

○設計業務委託者（株）山下設計関西支社設計監理部 小原氏）

エレベーターや、階段、共用部との位置関係や、また実際の天守の中心からの軸がどこになるかは、もう少し厳密に検証した上で、最終的に落とし込んでいきたい。

○吉田委員

1階共用部はトンネル状になっているので、その中心線上に軸線が重なっているのが理想

である。ただ、階段やエレベーターを少し軸線とずらすような工夫も必要ではないか。

広島城を中心とした軸線は、広島においては江戸時代までの一番重要な軸線である。現在は、南側のメルパルクなどの建物により、この軸がほとんど感じられないような状況であるので、原爆ドームと慰霊碑を軸とした南北の軸線があるが、それ以前の、もう一つの軸線にスポットを当てるような建物と空間になると非常にいいと思う。

#### ○設計業務委託者（㈱山下設計関西支社設計監理部 小原氏）

先ほどの眺望ラウンジの見え方については、今後、詳細なシミュレーション等の検証が必要と思っているが、以前ここにあった公衆トイレの前からは、地上レベルからも天守は確認できた。広島城天守への軸から少し東にずれた位置であったので、この軸上からどう見えるかについては、護国神社の植栽の関係を整理し、天守閣がしっかり見えるような眺望ラウンジにしたい。

#### ○吉田委員

1階は、平面図上でしっかり軸を明示し、2階の眺望ラウンジでは、もう少し広島城の全体像が把握できるようにして、1階と2階を軸と眺望で考え方を分けてもいいのかもしれない。

#### ○今川委員

これから七五三のシーズンだが、この広島城天守への軸上でよく記念撮影が行われている。この場所から天守が見えるか分からないが、多くの子供たちが写真を撮るスポットの一つであったと思う。今まで撮影スポットとして、市民に親しまれてきたこの場所に歴史館が建つことで、撮影スポットがなくなってしまったとなると、子供たちが気の毒である。

また、この御門橋は、成人式の前撮りスポットでもある。振り袖を着た子がここで撮影した写真がSNSなどに上がっている。そういう形で、広島城は若い世代の人々に親しまれてきた。歴史館のような立派な建物ができること自体は、非常に喜ばしいが、撮影スポットとして、この場を愛してきた人々に対し、代替の場所を用意しておく必要があるのではないか。

#### ○橋本施設整備担当課長

御門橋の前での撮影については、御門橋の護岸エリアと建物は11mほど離れる予定であるので、御門橋の上に立った人を撮影するというのであれば、この範囲の中で撮影できるだろう。

#### ○今川委員

今まで何もなかったから恥ずかしげもなく撮れたのであって、歴史館に人が集まるとなると、そこで写真を撮りたいと思う女の子たちがいなくなるだろう。しかも展望をするために、壁面がガラス張り、中から誰が見ているかもしれないとなると、どうなのだろうか。

撮影スポットとしてのニーズに対して、ここで撮れないのであれば、他のこっそり撮れる場所を用意してあげることはいかないのか。

#### ○橋本施設整備担当課長

このエリアにこの規模の建物が必要だということはもう決まっている。

#### ○今川委員

御門橋側の東壁面について、建物内から、この門を見るつもりで、1階も2階もガラス張りとしているのか。例えば一階をクロードにしまえば、あまり建物内からの視線を感じないので、御門橋で記念撮影をするというニーズが引き継がれるかもしれない。そういった形で広島城と私という関わりを持ってきた広島市民は一定数いると思う。遠足で行った資料館や、見に行った広島城という形で市民の心に残る形と、私の大事なイベントに撮影をした場所という形で心に残るのと、広島城にとってはどっちがいいのだろうか。

#### ○設計業務委託者（㈱山下設計関西支社設計監理部 小原氏）

東面をガラスの開口としているのは、眺望という話もあるが、2階の展示空間で歴史を学んだ上で、実際の天守閣や二の丸の櫓を見る、動線上切れることなく展示物と実際の建物を

感じることができる。要は建物に入り、展示だけ見て出るのではなく、外の風景も含め、展示の一連の流れに入っているという空間をつくることも、せっかくこの場に立つものとして、かなり重要であると考えている。

1階についても、本当に東面を全部ガラス張りにしたほうがいいのかというのは、もう少し検討が必要かもしれないが、御門橋から建物の間を11m程度離しているが、10m強の高さの建物が建つので、やはり圧迫感が多少ある。これに対し、壁面をガラス張りにすることで、壁面が少し後退して見え、圧迫感の軽減に繋がるとも考えている。

そして、ここをガラスでなく壁で区切ってしまうと、ペDESTリアンデッキから御門橋や、二の丸に抜けていく動線が分かりにくくなってしまう。この動線の視認性や、それぞれのつながりも、この空間ではかなり重要であると考えて、視認性の高いガラスを採用している。

#### ○柏尾委員

建物本体とその周りの部分、ペDESTリアンデッキとの接続などについては、今回の議事とは別になるのか。

#### ○橋本施設整備担当課長

ペDESTリアンデッキは既に建設中であり、今回の会議からは外していただきたい。

高さが、橋脚の下で5m以上必要なので、高さ的には7mほどの橋がだんだん下がっていくというイメージを持ってもらいたい。多少デザインされた陸橋のようなものがおりてくると考えていただきたい。

#### ○柏尾委員

ペDESTリアンデッキや歴史館周辺、御門橋前のスペースの舗装面について、地面の連動を留意いただきたい。

博物館の色彩や素材については、大きな問題は持っていないが、材料の高騰で、例えば、屋根材が高騰していると思うが、予算内で収まるのかが気になるところではある。

#### ○塚本委員

ガラス張りの部分について、内側から外を見るためにガラスである必要性があることは理解できたが、外から見たときに、ガラス張りである必要がないという箇所があるのではないか。この見える必要がない箇所については、格子の入れ方やガラスの素材などで少しデザインの的に分けてみてはどうか。

#### ○設計業務委託者（株）山下設計関西支社設計監理部 小原氏

検討させていただきたい。

#### ○田中座長

外構のところで、たまり空間を2か所設計されているが、実際に何かイメージはあるか。

#### ○設計業務委託者（株）山下設計関西支社設計監理部 小原氏

今回の事業外なので詳しくは説明していないが、外部については、周りにあるPark-PFIと一体的に計画する必要がある。ペDESTリアンデッキから二の丸の御門橋へ抜けていく動線沿いに少し、とどまれる空間をつくりたいと考えている。これまで、この場所にあった植栽の下ベンチで、お城を見ながら休憩をしていたという方に対し、歴史館ができた後も、少し風景や形は変わってしまうが、引き続き休めるスペースや、少し立ち寄れる空間をつくりたい。

#### ○田中座長

そのあたりのことは、今回の事業の中でも少し考えられるのか。

#### ○設計業務委託者（株）山下設計関西支社設計監理部 小原氏

Park-PFIともやり取りをしながら一体的につくっていくという話にはなっている。

#### ○田中座長

エリアの回遊性などを考えたときに、非常に大事だと思うので、Park-PFIとしっかり連携していただきたい。

それでは、皆様から意見を頂けたと思うので、まとめをさせていただきます。

一点目は、広島城天守への軸について、軸線が建築の平面図の中にどう落ちてくるのか、この計画とどのように整合するのかについて検討いただきたいということ。

二点目は、景観の話である。やはり景観的に優れたエリアであるので、これは次のステップかと思うが、実際にそれぞれの場所で、どういった景観が広がるのか、シミュレーションをしていただきたい。シミュレーションがあることで、この場所の大事さ、新しくできる場所としての意味などを多くの人が納得しやすくなるだろう。

三点目が、ガラス張りについて、視認の必要性を踏まえたガラスの素材について、検討していただきたいということ。

最後の四点目は、ここは、様々な出来事や人それぞれの思い出がある場所である。それをどう引き継いでいくか、また、どう新しいものをつくっていくかについては、取捨選択なのだと思う。そこで、ここで新しい思い出がつけられるようになってほしいと考えたら、やはり屋外空間の境界部分のデザインをいかに魅力的な空間にするかが、一つ重要なポイントになると思うので、この屋外のたまり空間のデザインを配慮いただきたい。これは、先ほど柏尾委員が言っていた舗装の連続性にもつながってくると思う。

#### ○今川委員

追加で質問がある。今回の事業範囲は、赤の二点鎖線で囲まれた部分であるか。であれば、東側たまり空間の南側、堀の横のところ、今は白紙であるが、次回イメージを見せていただきたい。

#### ○設計業務委託者（株）山下設計関西支社設計監理部 小原氏）

Park-PFIと合わせて計画をするため、次回、そのタイミングが合うかは分からないが、そこも今回の事業の中で計画をすることにはなっている。

#### ○今川委員

デザインのすり合わせや、確認業務はされているか。

#### ○橋本施設整備担当課長

主管課でまとめている。Park-PFIの提案とすり合わせて、協議を進める予定である。

#### ○今川委員

2階の展望ラウンジからの見え方が気になる。広島城天守への軸からはどのように見えるのか、ドローンなどで撮影できないか。

#### ○橋本施設整備担当課長

検討する。

#### ○田中座長

前半の話について、先ほどの繰り返しになるが、賑わいづくりを考えると、この境界の部分は非常に大事であるので、Park-PFIとの相互のコミュニケーションをしっかりとっていただきたいと思う。

議事(3)については以上である。

#### ○田中座長

それでは、その他報告「基町相生通地区第一種市街地再開発事業について」の中間報告をお願いします。

#### ○小倉市街地再開発担当課長

前回の会議において、委員の皆様からいただいた御意見への対応案については、後ほど施行者から説明させていただきます。

その前に、一つお願いがある。この再開発事業は、広島市が市の財産をつくる公共事業とは異なり、基本的には地権者である民間の皆様が資金調達をして、施行者となり事業を進めるもので、完成した建物も、地権者の方や新しく入居される方の財産となる。

そのため、前回会議の最後でも申したとおり、計画を変更する際は、地権者の方や入居される方の理解を得る必要がある。

また、特に再開発事業は、調達した資金の収入とその支出のバランスで成り立っている。

こうしたところから、本日は、市民の皆様に使っていただく1階と6階のオープンスペースについて、焦点を当てて御意見をいただきたい。

**○事業主体（株朝日ビルディング取締役企画開発室室長 駒谷取締役、株朝日新聞社不動産業務室 筒井企画開発専任部長）**

（その他報告「基町相生通地区第一種市街地再開発事業について」の説明）

**○田中座長**

この市街地再開発事業は、公的な資金も入ることから、公共貢献が求められる側面がある。今回の公共貢献はどこかという、相生通りを含む、特に低層階の賑わいづくりであると理解している。さきほど説明があったように、この会議では、1階や6階の低層部について、特に御意見がいただきたいという主旨かと思う。

では、今回の中間報告に対して、設計方針やデザイン上の配慮事項に関する御提案や御質問等はあるか。次回の2回目に向けて、これだけは伝えたいということがあれば、ぜひお願いしたい。

**○田中座長**

では、私から一点。6ページの内容は、公共貢献という意味から考えると非常に大事である。このピロティ広場について、資料に幾つか写真があるが、こういった方向性なのだと思う。こういった事例は、最近日本国内でもかなり増えているので、それらの事例を見ながら、広島らしさも加味しつつ、ここのデザインをどうするのか、第2回に向けて検討いただきたいと思う。

その際、先ほどの広島城三の丸の話にもあったが、こういったところで賑わいをつくるには、やはり境界部の都市デザインが重要である。エリアマネジメント団体や、地域の方々とコミュニケーションとりながら、ここのデザインを検討していただくと、完成した後も、生きてくる空間になると思う。

**○柏尾委員**

私も、田中委員と同じ意見である。地元のエリアマネジメント団体、周辺の地域の建物の方々との接点が非常に大事である。

**○角倉委員**

広島らしいデザインの何か取っかかりみたいなものが一つでも出てくれば、それを軸にこの周辺が変わっていく可能性がある。大分苦労されているのは重々承知であるが、期待している。20年、30年先のことを踏まえ、検討いただきたい。

**○田中座長**

この事業、私も委員の皆様も、地域の皆さんも、恐らく多くの方が期待されている部分があるので、角倉委員が言われていた、広島らしさの取っかかりみたいなものが少しでもあると、すごくいいと思う。

**○塚本委員**

前回出てないので、あまり把握していないところもあるかもしれないが、1階部分に広島らしさを入れる理由は何か。

**○田中座長**

前回の議論を振り返ると、今回の市街地再開発事業は、広島のみち全体が新しくなっていく一番のスタートポイントになるだろうということであった。そうすると、どこのまちにでもあるような再開発ではなく、ここにしかないものがほしい、ということが前回の議論であった。特に、市街地再開発事業の公共貢献という意味で、多くの方が訪れる1階や6階のオープンスペースに広島らしさがほしいという話であった。



## ○塚本委員

1階部分は、そこでのイベントに関しても、どちらかと言うと広島市民が使うことが多く、6階部分は、宿泊されている方やオフィスに出張で来られた方が使うことが多いのではないかと思う。予算が決まっているのであれば、広島らしさは6階で表現して、1階部分は使いやすさや、応用しやすい空間にできたほうがいいのではないか。

## ○田中座長

6階と1階がせつかく分かれているので、確かに、その使い分けがあるとよい。そうすると、これからの議論になってくるかと思うが、1階と6階をどう性格分けをし、それぞれのデザインをどうしていくかを考えられるとよい。

## ○今川委員

広島の中で子供をどこで遊ばせるかという特集で、NHKビルが載っていた。NHKビルの1階は何もないし、何もしていないが、上に上がると、スタンプラリーをしていたり、中が回遊できる仕掛けがある。それだけのことで、小さなフリーペーパーの中で評価され、ママたちに情報提供されていた。

ここも、広島らしくしないといけないとか、イベントを開こうと考えることも、大事で前向きなことだが、力を抜いた形でやっているNHKビルがそれだけ評価されていることもあるので、この場所にそぐうもの考えた方がいいのではないか。

カミハチキテルは基町クレドで展開されていて、ここでまた同じものをする、利用者はどっちに行くか迷ってしまう。広島ならではなく、ここならはのものを、ホテルも入るので、もしかしたら高級感がある空間を提供できるかもしれない。

また、広島はカフェが多く、カフェめぐりの雑誌が頻繁に出ている。他にカフェが多いまちとしては、金沢と京都がよく上がっており、特集が組まれている。何故、西日本の中で三都市なのかと考えたときに、一つのキーワードが、水じゃないかと思った。それぞれ、お酒をつくっていたりする。広島には、その水を活用した紙すきが、江戸時代にあったようで、厳島図会を含む昔の広島で出版された書籍、それこそ本日の議事であった広島城の歴史館に格納されるであろう、書類の紙はつやがあり、強く美しい紙で書かれているらしい。残念ながら手に取ったことはないが、触る人が触れば広島のものだと分かる聞いたことがある。

広島らしさとして何を持ってきたらいいのか、頭を抱えているようであるが、ひよっとすると、そういったすごくいい逸品があるのかもしれない。

## ○田中座長

広島らしさということをもっと自由に考えていいのでは、という話であったと思う。広島らしさと言われてしまうと、県産材とか折り鶴とかになりがちだが、もう少し自由に考えて、新しい広島らしさや、ここにしかないものというスタンスで考えるくらいでいいのかもしれない。

では、2回目に期待するということで、まとめをさせていただく。基本的に、1階と6階部分について意見をいただいた。

一つ目は、境界のデザインを考えたとき、境界の向こう側の方とコミュニケーションをとっていただきたいという話。

二つ目は、オープンスペースが1階と6階に分かれているので、その分かれていることをうまく生かしていただきたいという話。

三つ目は、その広島らしさという部分をもう少し自由に考えていいということ。ただ、少し新しさなど、前回の議論にもあったが、どこにでもある市街地再開発とは違うところがあるという。

以上の三点を2回目の会議に向けて検討いただきたい。